

令和4年度 事業報告

部門名： 総務課

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備 考
1. 利用者が安心して過ごせる施設環境の維持・管理	○	北海道からの感染症対応の備品の補充対応等指示を行った。また、各施設の感染症対策備蓄の再確認等を行った。
2. 職員が安心して働ける職場環境の維持・管理	○	新型コロナウイルスの影響で、実施期間が例年と異なったが、法令どおり健康診断(夜勤者は2回)の実施。ストレスチェックについては、法人全職員を対象に実施した。
3. 官公庁、取引先等外部との良好な関係を保ち法人を守る	○	今規程の改定及び期日までに各種届出を行い、業務に支障なく事業の運営ができた。
4. 総務課全員の更なるレベルアップを目指す	△	今年度は、事務職員1名が休職となったが、法人内及び外部を含め支障なく業務が遂行できていた。
5. 経費削減、節約、省エネルギーを常に心がける	△	燃料費の更なる高騰など、省エネルギーに関して周知徹底を行ったが、経費削減までには至らなかった。
実行方針	結果	備 考
1. 非常災害等の発生にも対応できる日々の備品と各施設の備蓄資材品の管理を行う。	○	3施設(4事業所)でクラスターの発生があった。総務課として、介護・看護職員に安心して業務が行えるよう、備品の手配を使用量と残数を見ながら行い複数の業者の協力のもと資材管理ができていた。
2. 求人広報活動の促進、離職率低下に向け各職員の目線に立ち人材定着の強化を図る。	○	ハローワーク、市内広報紙、法人ホームページなど求人活動を行った。今年度は、ハローワークから紹介の他に職員からの紹介による入職者も多かった。
3. 業務内容を理解し、課内の職種業務を受け持てるようスキルアップに努める。	△	業務は、支障なく遂行できていたが、今年度も課の職員のそれぞれの業務を各々が理解または熟知するには至っていなかった。
4. 各種規程をはじめ、各種法令や基準等を熟知し総務課としての役割を果たす。	○	規程に遵守し業務にあたり、規程の変更等も行い各事業所への配布と掲示も迅速に対応した。
5. 無駄のない備品・物品購入を行い経費の節約を日頃から心掛ける。	△	新規の購入以外にも、現在購入している備品の値上げの都度に相見積もりを行い、業者を選定し経費削減に努めた。しかし、物価高騰、燃料費の高騰により支出額は増加してした。
定量的な目標	結果	備 考
各事業が定量的目標を達成できるよう、全面的にバックアップ！	○	欠員事業所への職員募集の手続きの拡大、課の事務員及び管理員でできる人員不足事業所への協力体制、必要に応じた物品購入等を行った。
定性的な目標	結果	備 考
各事業がスムーズ且つ効果的に業務を遂行できるよう支援する！	○	外部研修の他、官公庁からの通達文書の配信、送信等、事業の運営に役立てる情報発信などを行った。引き続き、なりすましメールなど注意喚起を行い、パソコンのウイルス対策などの支援を行った。

令和4年度 事業報告

部門名: 業務課

結果凡例:◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. ユニットケアにおけるその人らしい生活が継続できるように、環境を見直し、必要物品を補充します。	○	利用者さんの身体状況等に合わせた環境整備を行い、ユニットごとの個別ケアの構築にむけ、ユニット会議やカンファレンスを実施し対応した。必要な物品については今後も検討し整備していく体制をつくっていく、
2. 一人一人の思いや気持ちを大切に、理解しながら支援していきます。	○	日々の関わりを通して利用者さんの思いや気持ちに寄り添った日々のケアを行っていた。
3. 自分らしく暮らし続けることができるよう一人一人の生活習慣に沿った日常生活援助を提供します。	○	入所時のアセスメントを通し、以前の生活状況や趣向、家族の意向などを確認し、施設に入所後継続して対応できるよう心掛け、取り組んでいた。
4. 住み慣れた地域とのつながりを大切に、生きがいを持って生活が継続できるようお手伝いします。	△	今年度についても新型コロナウイルス感染対策にて、積極的な地域との交流の実施には至らなかったが、網走神社祭でのお御輿の来所見学を通し触れ合う機会を設けられた。
5. 施設で働くそれぞれのスタッフが定着して働きやすい職場になれるように考えていきます。	○	離職者は2名という結果であった。次年度、更なる新規採用職員の定着を図るため、OJTを活用した育成システムの導入、体制の構築を行っていく。
実行方針	結果	備考
1. 施設の特徴を生かしたユニットケアのあり方を考え、ユニットケアの学習を深め、実践します。	△	新型コロナウイルスの感染状況もあり、施設内での研修の機会も上半期前半頃までの実施状況でとどまる結果となった。
2. 認知症ケアの理解を深め、丁寧な対応で利用者に安心できる介護を提供します。	○	基本個々の利用者の状況や、持病の悪化など看護、かかりつけ医と連携を図りながら、入居者が安心して生活できるように務めた。
3. 入居者の健康維持を目的とし、早期発見・早期治療に努め、入院期間1週間を目指します。	×	入院の平均日数は12.3日と目標の数値には至らなかった。入院期間は病状によっては長期入院に至ることもあるため、早期の医療連携を図っていき、利用者の健康保持に繋がるケアの向上に取り組んでいく。
4. 業務負担軽減の為、入居者の記録システムをデジタル化に向けて取り組みます。	×	記録システムのデジタル化へ向けた着手には至らなく、今後の導入に向けた検討課題とした。
5. 介護・看護職員のすべてが、なんでも相談できる体制を作り、働きやすい職場づくりを維持します。	○	離職者も少なく、養成校からの実習を通しての新人職員の採用や個別の応募前見学対応などの対応にて新規採用に繋がっていた。
6. 新型コロナウイルスの感染予防に努め、入居者と職員の安全を維持します。	△	新型コロナウイルスによるクラスターの発生が8月～9月にかけ2階の2ユニットで25名、12月に1階地域密着型で6名あった。
定量的な目標	結果	備考
① 入所の年間稼働率95%(年間24,273名)、短期入所の年間稼働率95%(年間3,467名)を目指します。	△	稼働率は施設入所93.7%、短期入所85.6%の結果で目標値を下回る結果であった。
② 毎月施設入所者66.5名、短期入所9.5名を維持できるようにします。	△	上半期は入院者が多く64.5名であった。下半期は66.8名と目標を達成することができた。短期入所は新型コロナによるクラスターの影響、その期間の利用休止があり例年よりも落ち込んだ結果となった。
定性的な目標	結果	備考
① 入所70床、短期入所10床を稼働していくにあたっての人材確保に重点を置きます。	○	介護・看護職員の採用にて、必要な職員の配置を行うことができた。
② なないろ館を利用される利用者・家族に、安心感・満足感を提供できるサービスを目指します。	○	コロナ禍の中でのWEB面会やガラス越し面会、メール機能を活用してのこまめな連絡や撮影した写真の郵送などを通し個別の家族への対応を行っていた。

令和4年度 事業報告

部門名： 給食業務

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運 営 方 針	結 果	備 考
1. 利用者の状態に合わせ、安心・安全な食事を提供をする	◎	米飯の硬さ、副食のきざみ等調節区別を実施
2. 利用者に満足していただける食事の工夫をする	◎	利用者の希望に添えるよう努力している
3. 最期のときまで口から栄養を摂り、食事を楽しむ工夫をする	◎	利用者の希望に添えるよう努力している
4. 旬の食材の使用を心がける	◎	旬の食材を使用した献立の実施に努力している
5. 安価で良質な食材を無駄なく使用する	○	物価値上がりの商品が多くあった
実 行 方 針	結 果	備 考
1. 多職種で連携し、利用者の食形態をこまめに見直し、一人一人に合った食事を提供する	○	こまめに食形態を見直せるよう、多職種の連携を密にする
2. 味、彩り、温度、盛り付けに気を付け、質の高い食事作りを目指す	◎	
3. 研修会に積極的に参加し、情報収集と周知を行う	○	書面や会議等で周知する
4. 網走らしい、季節感のある献立作りをする	○	行事食を取り入れているが、近隣材料の使用は難しい
5. 購入計画をまめに行い、無駄をなくすよう心がける	◎	
定量的な目標	結 果	備 考
1. 低栄養における高リスク者を前年より20%減少を目指す	×	低栄養の原因が個別に異なり、1年で完全改善に繋げることが難しい
2. 既往歴をもとに、食事に関する入院リスク者を前年より10%減少するよう食事形態の改善を図る	×	食事形態の見直しを行っていたが、入院リスクの改善に繋げることが難しい
定性的な目標	結 果	備 考
1. 多職種と連携し、入所者の栄養状態を見極め、低栄養高リスク者へのケアの方法を検討し、低栄養高リスク者の軽減を図る	○	今後も努力する
2. なないろ館において現在の食形態のうち、刻み食を軟菜食へと移行し食事に関するリスクを軽減できるよう努力する	×	令和5年度中から実施予定
3. 非日常を感じられるような行事食イベントを計画、実行できるよう努力する	○	敬老の日に寿司など華やかな行事食の提供をした
4. 衛生管理を徹底し、食中毒を予防する	○	今後も努力する

令和4年度 事業報告

部門名： 大曲レインボーハイツ

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×49%以下

運営方針	結果	備考
1. 安心できる日常生活が送れるよう環境整備の改善を取り組みます。その人らしく満足できる生活が送れるよう個別ケアの充実を図ります。	×	職員のコロナウイルス発症により施設内で蔓延してしまい利用者さんにも隔離対応などで満足できる生活を提供出来なかった。
2. 認知症ケアの大切さを一人一人認識しながら思いやりのある介護を目指します。	○	認知症についての講習などユニット会議内で行い、大切さを学び、取り組むことが出来た。
3. 一人一人に寄り添いながら体調の変化に留意し、安定した体調で過ごしていただけるよう支援します。	△	コロナウイルス発症に伴い、出来るだけ感染者を増やさないよう、体調の変化に十分に注意し支援を行ったが、体調不良者が出てしまった。
4. 地域との繋がりを途絶えることなく、住み慣れた地域でのつながりを継続していきます。	△	地域の行事関係も新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり参加する事は出来なかったが、地域の協力体制としては代表者が西地区の会議に参加し地域の一人としての活動は実施できた。
5. 職員の定着化の維持・継続を図り、安定した稼働率(特養入所者)で経営基盤の安定を図ります。	△	人事異動や退職などで職員の定着化の維持はできていないが、稼働率の安定はできた。
実行方針	結果	備考
1. 介護器具等の見直し(1丁目機械浴槽導入、車イス2台補充、暖房機の温度サーモバルブの交換、乾燥機1台修繕)	○	介護器具の見直しにより、環境整備が行われていた。
2. 認知症介護のスキルアップを図り、認知症介護基礎研修への参加(2～3名) ユニットリーダー育成(2名)	△	ユニットリーダー研修に1名参加
3. 日々の体調の変化を見逃さないよう介護・看護職員の連携を密にし、重症化を予防し長期入院を防ぎます。	△	体調の変化を見逃さぬよう、職員と連携を行い、病院受診等、行ってきたが、長期入院者がでてしまった。
4. 地域交流が困難な状況の為、施設での状況を地域の方に知って頂くよう取り組みます。(広報誌等)	×	新型コロナウイルスの流行、対応に追われ、広報誌などによる、施設の状況を知っていただくような取り組みは行えなかった。
5. 新型コロナウイルス感染予防対策の再確認を図りながら安心して入所者・職員が過ごせるよう努めます。こまめな節電、経費削減に努め、無駄な経費を見直し経営基盤の安定に努めます。	△	予防対策について確認はしていたが、施設で発症した際、対処が上手く出来ず、職員や入所者に不安を与えてしまった。経費削減については、水の出しっぱなしや電気の点けっぱなしなど、ユニット会議で周知し気を付けた。
定性的な目標	結果	備考
特養:月平均17人 稼働率97%	○	月平均17.3人 稼働率96.1%
・大曲レインボーハイツならではのアットホームな雰囲気の中で、利用者・ご家族が満足できるサービスを提供していきます。	×	コロナウイルス流行、感染により、ご家族との面会もできず、入所者も、制限された生活を送ることもあり、満足できるサービスが提供出来なかった部分がある。
・臨機応変な柔軟な対応で、施設で安心して楽しく過ごしていただけるようなサービスを提供していきます。	△	コロナウイルス感染により、一時期、楽しく過ごせるようなサービスの提供はできない場面もあったが、安心して過ごしていただくために臨機応変な対応を行えた。

令和4年度 事業報告

部門名： 向陽ヶ丘レインボーハイツ

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者さんが、目的や楽しみを持った生活に繋がるサービスや環境の提供に励みます。	○	施設行事・イベントや特別な食事などを通し、利用者さんが目的や楽しみを持てる生活を提供できた。
2. 一人一人に合わせた個別ケアの充実を図ります。	○	利用者さんに一人一人に合わせてケアを行うことで入院者の減少に繋がった。
3. 職員の想いや根拠あるケアの実現に向けて基礎介護の見直し、向上を図ります。	○	リーダーを中心に会議や施設内研修を通し、基礎介護の見直しを図り、根拠のあるケアを実践できた。
4. 地元地域との交流、協力、連携、行事参加を図り、地域や家族との関係性を築きます。	△	新型コロナ感染防止の観点から、地域行事や家族行事などは行えなかったが、窓越しやWEB面会などで家族との繋がりは保つことができた。
5. 入所者の稼働率の安定、小規模多機能居宅介護における登録の確保・利用の維持に努めます。必要な職員採用を行うとともに、職員の育成の体制を整備し離職を防ぎます。	△	特養は目標稼働率96%を達成。小規模は登録6.2名と達成は出来なかった。
実行方針	結果	備考
1. 年間・月間計画を作成し、季節行事や施設内行事、食事の楽しみ企画、実行の充実を図ります。設備の修繕や修理、必要物品の購入(電動ベッド、移乗用ボード、離床センサー、ハンドブレンダー、フードプロセッサーなど)	○	コロナ禍でも施設内の行事を中心に利用者さんが楽しめる企画を実行できた。ベッドやミキサーなどの備品も用意することができた。
2. 会議やミーティングを通し個々の状態の把握に努め、一人一人に合わせた統一したケアを行っていきます。	○	会議やミーティングを通し、利用者さんの状態把握を行い、統一したケアを行うことで稼働率の安定に繋がった。
3. 勉強会や研修を通し、基礎介護の見直し・強化を行い、職員間で統一したケアを行えるよう努めます。リーダーによるダブルチェックを実施し、体調不良等の早期発見、迅速な医療連携を取れるよう努めます。	○	リーダーを中心に施設内研修を行い、基礎介護の見直し、統一したケアを行うことで、利用者さんの体調変化を早期発見でき、入院数現象につながった。
4. 新型コロナウイルスを考慮しながら、予防対策を実施し可能な範囲での地域行事や会議等への参加、交流を図ります。コロナ禍でも利用者さんと家族との関りが持てるよう、感染予防を踏まえた面会や日々の暮らしがわかる取組みを確立します。	△	地域行事は限られたものしか参加できなかったが、WEB面会や窓越しでの面会を通し、家族との関りをもつことはできていた。
5. 退所後の新規入所を10日以内を目標にし努めます。小規模多機能の相談を可能な限り受け入れます。新規の雇用を確保するとともに、リーダーの育成や新人教育に努め、離職率を下げ職員の安定を図ります。	○	退所後の入所は平均10.1日と概ね10日で入所に繋げることができた。新規雇用は、数名入職したが、離職者もいる結果となった。
定量的な目標	結果	備考
特養:ベッド稼働率 96%、総入院日数、空所数を年間250日以下を目標に取り組みます。	◎	ベッド稼働率96.4%空所数236日と目標を達成することができた。
小規模多機能:登録人数 年間平均10.0人、登録利用人数10人の維持に努めます。	×	登録人数、平均6.2人と大幅に下回る結果となった。
定性的な目標	結果	備考
向陽ヶ丘レインボーハイツだからこそできる、生活感あふれる魅力ある施設作りを目指します。	○	特養、小規模共に特性を活かした施設作りを今年度も取り組めていた。
利用者、家族、地域との馴染みの関係作りを大切にします。	○	ご家族とは面会やお手紙などを通し関係を維持できていた。地域とも少ない交流機会を大切にし関係づくりに努めることが出来た。

令和4年度 事業報告

部門名： 養護老人ホーム ふれあい館

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1.自らが望む暮らしができるよう、ひとり一人の尊厳を護り、こころ温かなふれあいを感じられる「利用者本位」の施設を目指します。	△	「施設だからできない」を極力なくして、ひとり一人の願いや想いを温かく受容・共感し、その人らしい暮らしが実現できる施設にしたい。
2.地域住民としての自覚がもてる生活環境づくりと地域との自由、闊達なふれあいが広がる「開かれた施設」を目指します。	△	西地区活動推進協議会の運営、イベント等に積極的に参加・協力し地域交流を推進している。現在、コロナ禍のため、活動や交流は控えている。
実行方針	結果	備考
1.経済的事情だけでなく、養護老人ホームで対応すべき固有の福祉的な生活課題を有した高齢者の入所を優先する。複雑で多様な生活課題を抱えて入所に至った方々が、安心して穏やかに暮らせる環境と接遇・ケアを充実していく。	◎	一般1人、特定7人が新規入所となった。独居5人、他施設から入所2人、病院からは1人の入所経路となっている。地域への迷惑や影響がによる入所が5人(アルコール依存1人、認知症4人)と福祉的課題が顕著なケースが措置依頼され入所している。
2.西地区地域活動推進協議会、大曲町内会、民生委員といった地域の人的資源との連携を深め、施設が地域活動に参画することで、地域全体の福祉的ノウハウの向上に貢献する。	○	西地区の地域交流事業、地域防災訓練等は感染症対策のため全て中止になっているが、協議会や高齢者部会の会議には担当ができる限り出席し、地域ぐるみの施設運営、社会化を進めている。
実行計画	結果	備考
「新型コロナウイルスから自分と施設を守る意思と行動を！」のスローガンを継続し、職員ひとり1人が、絶対に施設に持ち込まないという自分を律する行動を続ける。	×	感染地域や札幌市等への往来、帰省、来訪については、職員が報告書を書き、施設長が指示書を出す体制により、漏れなく感染リスクの緩和解消を行った。職員の同居家族の所属先も任意で把握し、事前に家庭での状況を知り、施設に持ち込まないようにした。
感染防止を最優先しているため、地域との連携や協力が中断された状態となっている。今後の感染状況を踏まえて、利用者の行動範囲の拡大や生きがい対策の向上を図っていく。	△	自宅での生活は自由であり、自己責任のもとに自らが望む生活をする事ができるが、施設は、健康管理のもと病気の悪化等を防止するための指導や制限がある。看護師や栄養士、最も利用者に近い支援員が連携し、納得のできる協議や意見の擦り合わせにより調整することができた。
定量的な目標	結果	備考
施設内の感染防止策として、職員の同居家族、給食や清掃、理髪等の委託業者の従業員、地域や家庭での感染に対していち早く対応できるように事前把握に努める。	○	1～2回目のワクチン接種は、利用者84%、職員は29人中28人が接種し97%という接種率となった。追加接種は、入院が多く利用者は36人、職員27人(93%)だった。インフルエンザワクチンは、利用者44人、職員25人が接種している。
動続年数に応じた措置費増額、介護福祉士資格職員増による加算、適切な介護認定(区分変更)申請等により、施設の状態や評価に適した措置費支給、介護報酬給付を受ける。	◎	車イスを2台搭載できる車両が、6月に納車となった。スロープ式の低床タイプのワゴンであり、乗り心地はよくなっている。
開設から5年が経過し、食器や厨房機器の消耗・破損、パソコン、複写機の故障・不具合等が多くなっている。これらの設備や備品を計画的に修理・更新していく。	△	新型コロナウイルス感染防止のため、屋外に出かける行事、芸能披露(慰問)受入れは、すべて自粛した。代わりに、誕生会、ゲーム大会、映画会、スイカパーティ、クリスマス会、洋服店、おうちで外食、手作りおやつなど館内でのイベントや催しを充実させた。
看護職員の土日・祝日勤務は、利用者や介護現場に安心感を与えている。年度途中で2人に減員となったことで、業務負担が重くなっている。3人体制になるようにしたい。	◎	年間の入院者は16人、総日数は620日(1人平均38.8日)であり、2年度より122日減となっている。利用率は、96.1%(一般95.3%、特定は96.7%)であり、目標を達成している。1日の平均在在所数は48.1人となった。
定性的な目標	結果	備考
感染につながる恐れのある職員の行動については、事前に報告することが励行され、施設からの適切な指示、助言を行うことで、施設内感染の防止を確実にする。	△	現在、夜勤に従事できる支援員が19人中、14人となっている。日勤中心の5人は、職員1人、嘱託2人、非常勤2人であり、75歳という高齢者(嘱託)1人、病気による業務制限が2人、知的障害雇用が1人である。そういった障害に応じた就業上の配慮を行っている。
介護福祉士資格の取得を奨励し、知識と技能の高い専門職を育成し、支援力、介護力、問題解決能力を高める。施設内の委員会構成を再編し、責任ある分業を位置づける。	△	職員には、随時、チャン(通知)やSNSを活用して、感染防止対策、市内外の感染情報や行動指針、注意事項などを周知している。情報共有が感染防止の一翼を担っている。
転倒や誤薬といった事故が前年度よりも増加している。個別の事故の原因を調査分析し予防策を立てるが、一つの事故を全職員で反省し組織的な意識や行動につなげる。	○	階ごとに職員を専従にするフロアケアを始めて、1年半が経過して、確実に定着した。適時、階の異動を行い、階の特殊性を生かした「利用者主体」「つながるケア」を実践している。

令和4年度 事業報告

部門名: 網走レインボーハイツ 在宅介護支援センター

結果凡例: ◎100%、○80~99%、△79%~50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者、家族への「丁寧な」対応と「やすらぎと安心感」を提供する姿勢	○	傾聴姿勢は崩さずに利用者・家族へ安心感を提供した。
2. 利用者のサービス管理から健康管理、生活機能向上へ向けた管理	△	常に念頭において実施した。
3. 高齢者の状態変化への対応強化(認知症・中重度高齢者)	○	状態変化を見逃さず、随時対応している(サービス量、区分変更等)。
4. 医療との連携	○	医療職(医師、看護師、リハビリ職、薬剤師等)連携を図った。
5. 新規依頼は断らない。要介護のみならず要支援、事業対象者もマネジメントする	◎	困難事例も含めて断らず、他事業所からのケースも引き継ぎ、積極的にマネジメントを行った。
実行方針	結果	備考
1. 技術、重度化対応知識の習得(ソーシャルワーク+ケアワーク)	△	ケアワークについての学びの機会が少なかった。
2. サービス提供ネットワーク内での利用者の健康情報の共有と予後予測の習得	○	健康情報と予後について常に検討した。
3. 医療と介護の連携(多職種協働)による認知症、中重度高齢者マネジメント、生活機能向上	○	入院時の情報提供や、診察同行し主治医と協働した。
4. ケアマネ自身も支援者になる	○	ケアマネ自身、支援者になり利用者へのサポートを行った。
5. 総合事業への対応継続	◎	両地域包括支援センターより、積極的にマネジメントAおよびBの委託を受けた。
定量的な目標	結果	備考
1. ケアマネ5名体制(管理者含む)。特定事業所加算Ⅱ算定。その他加算の算定。	○	5名維持し、特定事業所加算Ⅱ算定。初回加算を算定している。
2. 年間1,600件利用(介護給付)	◎	1,942件(介護給付)の実績だった。
定性的な目標	結果	備考
1. 5名体制でのチームワークづくりとフォロー体制の構築。地域問題への対応。	○	ミーティング等により5名でのよりよい関係づくり、連携を図ることができた。地域の困難ケースへの対応も行った。
2. 最新のケアを知る(新しい助言へ)	△	学ぶ機会は少なかった。

令和4年度 事業報告

部門名: 網走レインボーハイツ デイサービスセンター

結果凡例:◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 心のつながりを大切にして、共に笑顔で過ごせるデイサービスを目指します。	○	コロナ禍で活動が制限された中でも、デイで楽しんでもらえるようなプログラムを考案・実施し、喜んでいただきました
2. 利用者様へ敬う気持ちを大切にして日々のサービスを行っています。	○	親切、丁寧なサービスを実施できるように心がけてきました。
3. 毎日が楽しく過ごせるようにデイサービスを通してお手伝いします。	○	在宅生活が継続できるように日々の困りごとの相談に乗り、力になれるようにしてきました
4. 網走の催しへ参加、網走の歴史を知り、網走を楽しめるように活動を行います。	×	コロナ禍にて活動が制限され催しへの参加はできませんでした。
5. 多くの方がデイサービスをご利用できるように新規利用者の受け入れを行っています。	○	数多くお問い合わせがあり、利用の登録を増やすことができました
実行方針	結果	備考
1. 利用者様、ご家族のニーズに沿ったケアプラン作成、実施、モニタリング、評価を行います。	○	通所介護計画書の作成、実施、評価を確実に行って行きました
2. 利用者様に寄り添って「やりたいこと」「必要なこと」をお手伝いできるデイサービスを目指します。	○	個別機能訓練、運動機能向上のレクリエーションなど実施。好評で進んでいます
3. プログラムの多様化、行事の充実化を図り、楽しく通える場所を作ります。	○	室内で出来るプログラムは充実したものになりました。
4. 網走の文化、季節を感じられるようにボランティア、市などの各関係機関と連携を行います。	×	外部の関係機関などの交流は実施できませんでした。
居宅支援事業者や利用者様へ新規の利用者さまのご紹介を頂けるように進めています。	○	多くの利用者を紹介いただき利用につなげることができました。
定量的な目標	結果	備考
1日平均20.5件を目指します。	○	1日平均21.4人(前年比 +0.2人)
年間実績数 6,300件、月525件 を目指します。	○	年 6,482件 (前年比 +258人) 月平均 540人 (前年比 +22人)
定性的な目標	結果	備考
・施設内外の勉強会、研修を通し、スタッフが知識をもってケアに臨むことができるようにします。	×	外部の研修は参加できませんでした。
・「おもてなし」の心を持って施設、送迎車の掃除、整理整頓を行います。	○	感染症対策に伴い、施設内、送迎車の消毒をこまめに行っています。

令和4年度 事業報告

部門名: レインボーハイツ あいむデイサービスセンター

結果凡例:◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備 考
1. 個々に必要なサービスを安心して受けられる場を提供します。	○	入浴やストレッチなど、個々のサービスに応じて安全面を考慮し、対応をすることができました。
2. 利用者様の大切にしている生活を共有し、利用者様らしく生活ができるように努めます。	○	ご本人やご家族、ケアマネジャーと連携を図りながら健康や生活状態等を把握し、支援することができました。
3. 持っている力を活かせるレクリエーションや行事を行い、有意義な時間を過ごせるように努めます。	○	壁飾り作りや風船パレー、DVDを活用した体操など、利用者様に寄り添ったレクリエーションを取り入れることで、笑顔があふれる環境を作ることができました。
4. 地域との交流を大切にし、地域から必要とされるデイサービスを目指します。	×	新型コロナウイルス感染予防による地域行事の中止や外出制限により、地域交流はできませんでした。
5. 利用定員を意識しながら稼働率の安定を図ります。	×	体調不良による長期休暇や施設入所、コロナウイルス感染による閉所があり、安定した稼働率を維持することができませんでした。
実行方針	結果	備 考
1. 利用者、ご家族のニーズに添ったケアの実地。共に楽しく過ごす事のできるデイサービスを提供します。	○	来所されるのが楽しい環境作りをすることができました。
2. 一人ひとりのケアの充実。利用者様の「やりたいこと」を実行できるデイサービスを目指します。	△	機能訓練の再開や外出・買い物レクリエーションを望む声が聞かれましたが、コロナウイルス感染予防や職員の力量不足により実現できませんでした。
3. 外出、体操、創作活動等のプログラムの多様化を進め、楽しく過ごされる場所を作ります。	○	外出はコロナウイルス感染予防のためできませんでした。レクリエーションの種類を増やしたり、午前と午後運動を取り入れ不活発にならないように努めました。
4. 地域のイベント、行事への参加。季節を感じられる取組を行います。	○	地域のイベントにはコロナウイルス感染予防の不参加でしたが、室内でも季節が感じられるよう壁飾りを毎月違うものにししたり、室内でお祭りやクリスマス会を開催することで楽しんで頂けました。
5. 加算の取得を考え、単価を上げることを意識して業務を進めていきます。	△	入浴していない利用者様へ入浴を進めましたが、拒否されることが多々あることや、機能訓練の休止により単価を上げることができませんでした。
定量的な目標	結果	備 考
介護保険(要介護、総合事業) 年間実績数 7,220件、月601件、一日平均22.7件を目指します。	×	延べ利用者人数7,216件、月516件、1日平均17.5件で目標は達成できませんでした。8月より利用者様の減少や、複数回利用されている利用者様の施設入所、12月はコロナウイルス感染による閉所により、12月から3月迄の1日平均利用者人数が16件ほどになってしまいました。
定性的な目標	結果	備 考
・人生の先輩である利用者様に敬意を持った対応を行ないます。	○	利用者様との距離感が近すぎることがあり、言葉遣いや行動に配慮が欠けることがありました。
・施設内外の勉強会や研修を通し、スタッフが知識を持ってケアに臨むことができるようにします。	△	コロナウイルス感染予防により、研修ができませんでした。会議の際に感染症対策を周知させることができました。
・感染症予防に取り組み、過ごしやすい環境整備を行ないます。	△	手指消毒や換気を行ない、黙食やマスクの着用、車内の消毒や使用した膝掛けなどの洗濯などを行いました。職員や利用者様のコロナウイルス感染により、閉所する日が出てしまいました。

令和4年度 事業報告

部門名： 網走レインボーハイツ ホームヘルパー派遣センター

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備 考
1. 利用者に「助かった・ありがたい」と感じていただけるようなサービス、笑顔を提供します。	○	利用者から新たな要望が出た時は、ケアマネジャーにフィードバックしました。
2. 利用者が「ご自分で、判断、決定してゆく」ことができるように、説明、助言します。	○	「利用者毎のこだわり」や「やりたい事」等を大事にしてきましたが、実現はとても大変です。
3. 利用者が困らないで生活できるように、温かく情報提供できるヘルパーを目指します。	△	出来る事を増やして頂くことは難しいですが、持続する事のサポートはできたと思います。
4. ご家族、町内会、援助者、介護保険担当者等との繋がりを大切にする気持ちを見守ります。	△	新しいお付き合いは、なかなか増えませんが、今までのお付き合いを、大切にすることはできたのではないかと思います。
5. 利用者の環境、からだ、気持ちの変化に応じた適切なサービスにより、利用者数を維持します。	○	より良いサービスを心掛けました。ヘルパーの収入調整があり、新規利用者の受け入れが難しい場合があります。
実行方針	結果	備 考
1. 利用者の希望を満たす、過不足のないサービスを目指します。	△	ヘルパー同士、担当者会議等で、見直しを繰り返しました。まだまだ、努力は必要です。
2. 利用者が意思決定する場面を意識しながら、サービスを提供します。	○	口から発する言葉だけではなく、思いを探って、理解しようと心掛けました。
3. ヘルパーは、利用者にとって、気楽に、安心して相談できる援助者になります。	○	コロナ禍の中で、信頼関係を築こうと、いつも心掛けていたと思います。
4. 対話を大切にし、ひきこもりがちにならないよう、話題を見つけ、声掛けをし、見守ります。	○	それぞれの利用者が、出来る限り自分の持っている力を発揮して生活できるようサポートできたと思います。
5. 利用者の変化を、素早く感じ取れ、他職種援助者との連携をとれるヘルパーを目指します。	○	同じヘルパーが続けて訪問することで、安心してサービスを受けて下さっていたように感じます。
定量的な目標	結果	備 考
年間900件	○	年間858件でした。 訪問介護員採用1名募集 更に利用者増を目指します。
定性的な目標	結果	備 考
職員の健康管理(感染対策の徹底)、働きやすい体制を整え、やりがいのある仕事を長く続けられるように協力し合います。 利用者の痛み、戸惑い、喜びに寄り添えるヘルパーを目指します。	○	コロナ禍の中、利用者の体調や、生活状況の変化に気づき、サービス担当者間で連絡、情報共有できたことで、訪問に活かされたと思います。